



小郡市立立石中学校

令和5年2月1日

立石中学校だより

たっちゅう 第39号

校長 山村 栄揮



学校教育目標 ～ 夢を持ち 未来に向かう、心豊かで たくましい生徒の育成 ～

### 筑後地区新人駅伝大会

1月18日(水)に大牟田市諏訪公園周回コースにて、筑後地区中学校新人駅伝競走大会が開催されました。新型コロナウイルス感染の心配もありましたが、今年は、有観客で大会が開催されました。毎朝練習を積んできた駅伝部の皆さんの頑張りはすばらしく、しっかりと襷をつないでくれました。立石中学校の代表として頑張った皆さんに感謝します。本当にお疲れ様でした。



【女子】1区 榎谷



2区 池田



3区 平山



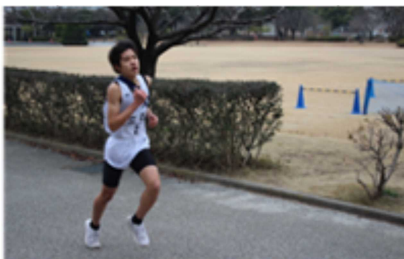
4区 堀田



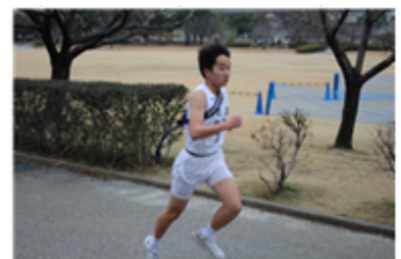
5区 重松



【男子】1区 棚町



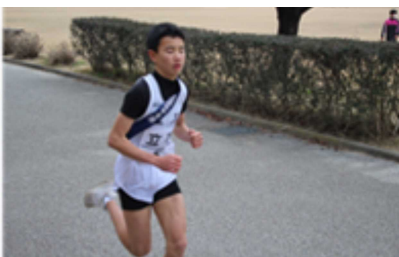
2区 田中



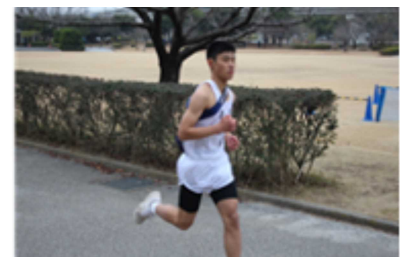
3区 美山



4区 井上



5区 黒瀬



6区 松中

## 人権作文コンテスト

久留米人権擁護委員協議会主催の中学生人権作文コンテストで、立石中学校から、2年生の古賀大翔さんが表彰されました。大変名誉なことです。日頃から本校で大切にしている人権・同和教育の賜だと思えます。



## 進路獲得に向けて、頑張れ3年生！

先日から、昼休みと放課後に3年生の高校入試に向けての面接練習を行いました。練習といえども緊張感をもって臨んでくれたと思いますが、「失敗したくない」という思いや緊張の余り受け答えがうまく進まない生徒さんも多くいました。ただ、適度な緊張感はよい結果につながるというデータもありますし、練習では失敗していいのです。ただ、その失敗を本番に生かしてもらいたいと思えました。

『受験』は団体戦」という言葉があります。しかし受験は本来「個人」でやり遂げるものです。出願することも、学力をつけることも、受験する事も、そしてその「合否」を受けることも基本的には自分一人でやらなければなりません。そもそも「勉強」は一人です。他人と一緒に勉強しておしゃべりばかりでは話になりません。そう考えれば、『受験は団体戦』ではなく個人戦であるという言葉がふさわしいのかもしれませんが。しかし、この言葉の意味には次のような意味が含まれていると思えます。

**苦しいときに互いに励ましあって受験勉強を乗り切る。  
お互いにライバル意識をもち、切磋琢磨し受験勉強を乗り切る。**

受験勉強は長いので、大半の人がどこかで精神的に折れそうになる瞬間が来ます。どうしても成績が上がらない、受かる気がしない・・・。どんな人でも辛い現実と向き合わなければいけません。ですがこの受験への不安はみんな同じです。お互いに支え合えばいいのです。学年全体に「やるぞ！」という雰囲気があれば「きついな。」と思った人も「頑張ってみよう！」という気持ちになるのではないのでしょうか。いよいよ本格的な受験シーズンを迎えました。自己の進路実現に向け頑張ってください。

## 小中一貫教育準備委員会

第35号の学校だよりでも紹介しましたが、立石小中校区では、小中一貫教育が推進されています。それに伴い、令和5年度の学校教育目標を小中で統一したものにしようと考えています。そのために、家庭・地域の皆様の声が知りたくて、昨年末に「立石小・中学校の児童・生徒には、9年間でどんな資質・能力を身に付けてほしいと思えますか」という内容のアンケートをとらせていただきました。



【カリキュラムをもとに情報交換】  
1月24日（火）に第4回の小中一貫教育推進準備委員会が開催され、委員の皆様にはその内容をお知らせしております。そして、その内容を受けて次年度の学校教育目標を設定しました。正式には、新年度になって詳しく示されると思いますが、現時点での内容をお知らせしておきたいと思えます。

令和5年度学校教育目標「郷土を愛し、自分で考え、自ら行動する子どもの育成」

- ◎地域の願い…地域の一人としての自覚、地域への愛着(自然・文化の継承)→郷土愛  
社会性、広い視野、礼儀、思いやり・優しさ・協調性→見えない学力
- ◎保護者の願い…知識・技能、思考力、問題解決力→見える学力  
思いやり、優しさ、意欲、正義感、協調性、コミュニケーション力  
→見えない学力

また、その取組の一つとして、小中学校で実施している総合的な学習の時間をベースに、小中9カ年を見通した「くろつちカリキュラム」というものを作成しようとしています。小中9カ年間を発達段階に応じて、前期(小1→小4)・中期(小5～中1)・後期(中2～中3)の3段階で捉え、学習を展開しようというものです。先日の会では、校区の区長様をはじめ、小郡市教育委員会からは教育長・部長にもおいでいただきました。私の方から、取組の概要を説明させていただいた後に、参加の皆様から地域の「ひと・もの・こと」に関する情報を提供していただきました。今後のカリキュラムづくりの参考にさせていただきます。